

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2010～2014

課題番号：22500595

研究課題名(和文) スポーツタレント発掘事業と地域スポーツ振興事業の地域協働による連携とシステム構築

研究課題名(英文) Collaboration and system building through local partnerships for sports talent identification programmes and local sports promotion programmes.

研究代表者

松永 敬子 (Matsunaga, Keiko)

龍谷大学・経営学部・教授

研究者番号：60281565

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、我が国のスポーツタレント発掘事業に注目した。研究対象はタレントとして選抜されなかった「非選抜者」である。調査の結果、非選抜者に対するサポートプログラム等のニーズが高いことが明らかとなった。具体的には、「スポーツ教室・イベント等の情報提供」、「地域スポーツクラブなどの充実」、「学校でのプログラムの充実」、「高校生や大学生と共に活動するスポーツイベントの実施」などであった(定性的データを分析)。そのため、地域の教育機関や競技団体、地域スポーツクラブ等を巻き込んだ、「地域協働」による連携とシステム構築は、非選抜者へのサポートプログラムの要となることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This study focused on sports talent identification programmes in Japan. A survey was administered to individuals who were not selected as sports talents (hereafter referred to as "non-selected person"). A qualitative analysis of the survey results indicated a high demand for support programmes for non-selected athletes. Examples of specific needs are "provision of information on sports classes and events etc.," "improvement of local sports clubs etc.," "improvement of programmes in schools," and "implementation of sport events that require high school and university student participation." The results also revealed that collaboration and system building through "local partnerships" involving local educational institutions, sport federations, local sport clubs, and so on will support non-selected person significantly.

研究分野：スポーツマネジメント

キーワード：スポーツタレント発掘事業 地域スポーツ振興事業 地域協働 連携 システム構築

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 我が国では、2004 年よりスポーツにおける国際競技力向上施策として「タレント発掘・育成事業」(以下、TID 事業)を展開している。TID 事業とは、競技スポーツに対して優れた素質を有する人材を発掘・育成し、世界レベルの大会で活躍する競技者を輩出することを最終目標とする事業である。具体的には、競技経験に関係なく優れた素質を有する競技者を識別し、発掘後に育成する事業である。日本スポーツ振興センター (JSC) と日本オリンピック委員会 (JOC) との連携による地方公共団体等の TID 事業は、福岡県を皮切りに岩手県・山形県・埼玉県・長野県・和歌山県・宮城県・北海道 (3 地域)・東京都・秋田県・山口県、そして京都府の 14 地域となり、研究当初から増加傾向にある (2015 年 3 月現在)。

(2) TID 事業に関する研究は、プログラム開発・評価、情報戦略などの専門分野の研究者によって、国内外で蓄積されつつある。しかし、その多くは、発掘時もしくは発掘後の育成段階に関係する内容が多く、発掘されなかった「非選抜者」に注目した研究は皆無であった。実施地域によって異なるが、非選抜者は全体の約 9 割以上となることもある点や多くが小学生の段階である点にも注目し、国内外のタレント発掘事業実施地域の非選抜者へのサポートは重要であると判断し、現状を把握することから着手した。

## 2. 研究の目的

スポーツタレント発掘事業のオーディション (測定会等) に参加した結果、「タレントとして選抜されなかった多くの子どもたち (非選抜者)」に着目し、非選抜者へのサポートに関する現状を把握することを第 1 の目的とする。単にスポーツタレント発掘事業を競技スポーツの発展のためだけに遂行するのではなく、実施事業を起点に地域スポーツ振興の発展へと繋げるための新たな地域協働によるサポートシステムを構築するための一助となることを第 2 の目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1) 2010 年度～2012 年度

国内外のスポーツタレント発掘事業の現状についてのヒアリング調査

日本スポーツ振興センター (JSC) と日本オリンピック委員会 (JOC) との連携による地方公共団体等の

TID 事業実施地域へのヒアリング  
日本スポーツ振興センター (JSC)  
関連へのヒアリング

### (2) 2010 年度～2014 年度

国内のスポーツタレント発掘事業実施地域におけるオーディション (測定会等) 参加者および参加者の保護者への質問紙調査 (和歌山県・京都府)

### (3) 2013 年度～2014 年度

国内スポーツタレント発掘事業実施地域における先進事例に関するヒアリング調査 (福岡県・山形県のサポートプログラム)

### (4) 2011 年度～2014 年度

国内のスポーツタレント発掘事業実施地域におけるオーディション (測定会等) 参加者へのサポートプログラムの実施 (和歌山県・京都府において試行的に実施)

## 4. 研究成果

(1) スポーツタレント発掘事業における非選抜者へのサポートプログラム実施状況～実施地域の現状把握～

サポートシステム実施地域の現状

本研究では、日本スポーツ振興センター (JSC) と日本オリンピック委員会 (JOC) との連携による地方公共団体等の TID 事業実施地域について、ヒアリング調査および情報資料収集を実施した。その結果、非選抜者を対象としたサポートシステムの必要性は感じているものの、実践している地域は少ないことが明らかになった。その中でも、最終段階で非選抜者に対して実施している福岡県タレント発掘事業の 3 次選考非選出者育成システム (Fukuoka Hopes) は、非常に重要な役割を果たしていた。さらに、北海道の美深町タレント発掘・育成事業の関連では総合型地域スポーツクラブのびふかスポーツクラブと連携しており、地域協働によるサポートシステムが構築されている事例であった。そして、まだ地域協働によるシステム構築までには至っていないが、山形県スポーツタレント発掘事業では、県内 4 地区で活動する YMAGATA ドリームキッズ (選抜者) への育成事業のプログラムの一部を県下の市体育協会、総合型地域スポーツクラブなどに委託をしているが、その委託事業には非選抜者の参加も一部可能であり、特に総合型地域スポーツクラブとの連携については、課題はあるが、地域スポーツ振興の視点からも画期的な事例であるといえる。

### サポートプログラム実施地域の現状

システム構築までには至ってはいないが、サポートプログラムに関連する活動を実施している地域は多い。その内容は主に、オーディション（測定会）の結果のフィードバックに関するサポートである。次に、オーディション（測定会）参加時に、各競技種目の紹介や体験プログラムの設定をしたり、各競技団体や大学で実施されるスポーツ体験教室などへの情報提供をしたりするサポートである。さらに、限られた実施地域ではあるが、非選抜者の希望者に対して、スポーツ関連の情報提供をメール等で配信している事例もある。このように、各実施地域においても、スポーツタレント発掘事業を競技スポーツの発展のためだけに遂行するのではなく、実施事業を起点に地域スポーツ振興の発展へと繋げるための新たな地域協働によるサポートシステムの構築に向けて、さまざまな取り組みを実施している。しかし、参加者がゴールデンエイジの小学生であるという点や約9割以上が非選抜者になるという点を考慮すると、さらに参加者及び保護者のニーズを掘り下げ、システム構築に向けて具現化していく必要がある。

(2) スポーツタレント発掘事業実施地域におけるオーディション（測定会等）参加者（保護者）の意識調査-京の子どもダイヤモンドプロジェクト（京都府）

#### 調査対象者の特性

2011年にスタートした京の子どもダイヤモンドプロジェクト（京都府）のオーディション（測定会）において、プレテストを実施し、2012年～2014年にかけて本調査を実施した結果、調査回答者の保護者の比率は、父親よりも母親の方が高い割合を示し、全体の約75%を占めた。また、参加した子どもの性別をみると2013年調査以外は女子が若干多い傾向にあった。さらに、参加した子どもの週1回以上の運動・スポーツ実施状況は約8割以上で、概ね全国平均と同様の傾向であった。

調査回答者のプロジェクトに関する意識をみると、「京の子どもダイヤモンドプロジェクト」の目的・内容の把握については、約95%以上が把握しており、非常に高い数値となった。また、プロジェクトへの参加理由については、「子どもは行きたがらなかったが、自分が参加させたかったから」という、強制参加が2012年調査では17.0%、2013年調査

は17.5%、2014年調査は15.8%という数値を示した。特に、2014年調査からはバドミントンとフェンシングに加え、新たにカヌーという選択肢が増え、子どもの意欲的な参加意識に繋がったことが推察される。さらに、プロジェクトに参加させた理由は、全体的には「プロジェクトの育成プログラムが魅力的だったから」という理由が約半数を占め、「子どもに合ったスポーツを見つけたいから」という項目も年々上昇し、2014年調査では46.3%と最も高い数値となっている。この傾向からも、子どもの適性を見出すことができるサポートプログラムへのニーズが保護者に内在していることが分かる（表1）。最後にプロジェクトの必要性についての問いに関しては、必要だという回答が非常に多く、参加者の保護者の関心の高さが伺える。

表1 オーディション（測定会）に参加させた理由 (%)

	2012 (n=102)	2013 (n=122)	2014 (n=114)
プロジェクトの育成プログラムが魅力的だったから	51.0	54.1	45.4
子どもに合ったスポーツを見つけたいから	29.4	40.2	46.3
スポーツを上達させたかったから	25.5	30.3	33.3
将来スポーツ選手になってもらいたいから	17.6	15.6	13.0
その他	13.7	17.2	15.8

複数回答

非選抜者へのサポート内容とその体制に対する要望（参加者の保護者）

調査対象者であるオーディション（測定会）参加者の保護者に対して、非選抜者へのサポート内容やその体制に対する要望について自由記述により回答を求め、分析をしたものである。保護者が考える非選抜者へのサポートについての要望・意見については、2012年調査では102名中77名の77.5%、2013年調査では125名中71名の56.8%、2014年調査では114名中55名の48.2%の記述があった。自由回答であるにもかかわらず、約半数以上の調査対象者の記述が確認され、様々なニーズや欲求を抱えていることが明らかとなった。つまり、非選抜者へのサポートシステム構築への期待の大きさがこの回答率からも伺える。自由回答の記述の分析には質的研究のデータ分析に用いるMAXQDAを活用した。分析方法は自由回答を入力し、質的データを作成した後、切片化の作業によりそれぞれにラベル名を付け、カテゴリーに分類した。この段階で、特にプロジェクト主催者側に望むサポートに関する要望や意見にカテゴリーを絞り込み、コアカテゴリーを見出すという手順で分析を進め、3つのコア

カテゴリーを見出した。分析には、他の研究者と主催者の意見を反映し、慎重に検討を重ねた。

その結果、プロジェクト主催者に望む非選抜者へのサポートの内容や体制は、3つのコアカテゴリーと11のカテゴリーに分類された。1つ目のコアカテゴリーは、「1. スポーツ環境の整備によるサポート」で、「1-1 スポーツ教室・スポーツイベント等の案内などの情報提供」、「1-2 地域や競技ごとのスポーツクラブなどの充実」、「1-3 多様なスポーツにチャレンジする機会の提供」、「1-4 学校でのプログラムの充実」、「1-5 高校生や大学生と共に活動するスポーツイベントの実施」の5つのカテゴリーに分類された。2つ目のコアカテゴリーは、「2. 結果のフィードバックによるサポート」で、「2-1 長所などの具体的な結果をフィードバックする」、「2-2 適性や能力の傾向などをフィードバックする」の2つのカテゴリーに分類された。3つ目のコアカテゴリーは、「3. プロジェクトの改革によるサポート」で、「3-1 追加のオーディションの実施」、「3-2 2軍のような組織づくりと指導体制の確立」、「3-3 育成種目の追加」、「3-4 育成人数の追加」の4つのカテゴリーに分類された。

#### -1 コアカテゴリー「1. スポーツ環境の整備によるサポート」

スポーツ環境の整備によるサポートについて、「1-1 スポーツ教室・スポーツイベント等の案内などの情報提供」は、2011年のプレ調査と2012年調査の結果を受けて、龍谷大学のREC事業である「ジュニアキャンパス」の冊子を1次オーディションの際に配布する取り組みなどを実施している。これは、「1-3 多様なスポーツにチャレンジする機会の提供」、「1-5 高校生や大学生と共に活動するスポーツイベントの実施」とも関連するが、京都府内では龍谷大学のように小学生対象のスポーツ体験教室などを年間行事として冊子にまとめている高校・大学は存在しないことが京都府の事業担当者と筆者の調査から明らかとなり、各大学などが単発でスポーツイベントや教室を実施しているものをすべて周知することは難しい状況である。しかし、各競技団体等が実施している体験教室やイベントなどもあるため、各関係機関から情報を集約し、1次オーディション参加者にメール登録の案内の上、希望者に情報を配信することなどは可能である。しかし、業務負担の観点やセキュリティーの問題などの課題も残る。また、「1-4 学校でのプログラムの充実」

については、教育委員会との連携、「1-2 地域や競技ごとのスポーツクラブなどの充実」については、京都府体育協会および各競技団体、京都府広域スポーツセンターおよび京都府下の地域スポーツクラブなど、さまざまな組織・団体との連携・協力が必要となる。国内初のTID事業を手掛けた福岡県タレント発掘事業や山形県スポーツタレント発掘事業では、教育機関・競技団体・地域スポーツクラブなどの関係団体との会議の際には、連携・協働の可能性について議論をしている。特に、スポーツに関する情報提供や多様なスポーツにチャレンジする機会の提供に関しては、年々ニーズが増加しているため、具体的な地域協働サポートプログラム実施に向け、アクションに繋げる必要がある。

#### -2 コアカテゴリー「2. 結果のフィードバックによるサポート」

結果のフィードバックについては非常に重要で、京の子どもダイヤモンドプロジェクトにおいても実施をしているが、「2-1 長所などの具体的な結果をフィードバックする」については、もう少し分かりやすく表記するなどの改善の余地はあるといえる。事例として前述の福岡県タレント発掘事業では、結果の評価のみならず、具体的なトレーニング方法や栄養・食事のアドバイスに至るまで、個別に明記したものを参加者へとフィードバックしている。これは、非選抜者にとって非常に有益な情報であるといえる。しかし、1次オーディションの結果のみで「2-2 適性や能力の傾向などをフィードバックする」といったより具体的な内容に踏み込むことは難しく、誤解や混乱を招く可能性もあるため、現実的には課題が多い。

#### -3 コアカテゴリーは、「3. プロジェクトの改革によるサポート」

京の子どもダイヤモンドプロジェクトのコンセプトに関わることであり、以下の3-1から3-4のカテゴリーの内容を反映させたサポートをすぐに実現するという改革は難しい。しかし、他の地域のTID事業では、例えば和歌山県ゴールデンキッズ発掘プロジェクトのように、小学3年時のオーディションで非選抜者となった子どもが、小学4年時に再チャレンジできるシステムとなっており、「3-1 追加のオーディションの実施」にあたる。また、福岡県タレント発掘事業では、前述のように、最終の3次選考で非選抜者となった子どもだけに、Hopesというプログラムへの参加のチャンスが与えられ、福岡県のトレーニングルームの無料使用や限定され

たプログラムへの参加やトレーニング指導用の DVD・栄養関連の冊子の配布などもある。これは、「3-2 2軍のような組織づくりと指導体制の確立」にあたり京都府の事業の改革には大いに参考になる。さらに、「3-3 育成種目の追加」については、2014 年オーディションからカヌーが追加されたように改善がなされ、今後も諸条件が整えば、新たな種目が追加される可能性を秘めている。最後に、「3-4 育成人数の追加」については、現在 4 期生までが揃い、約 16 名となり、今後 2 年間さらに増える現状を考えると厳しいといえる。

#### (4) まとめ

単にスポーツタレント発掘事業を競技スポーツの発展のためだけに遂行するのではなく、実施事業を起点に地域スポーツ振興の発展へと繋げるための新たな地域協働によるサポートシステムを構築するためには、非選抜者へのサポートが重要であることが確認された。本研究で明らかになった、さまざまな非選抜者へのサポートプログラムを少しでも実施する方向で検討し、各実施地域においてシステムとして構築していくことが今後の課題である。

#### 5 . 主な発表論文等

( 研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線 )

〔雑誌論文〕( 計 1 件 )

松永敬子、スポーツタレント発掘事業における非選抜者へのサポートプログラムに関する一考察～スポーツマーケティングの視点から～、経営学論集、査読有、第 55 巻 1 号、2015

〔学会発表〕( 計 1 件 )

〔図書〕 ( 計 1 件 )

原田宗彦編著、松永敬子 他、杏林書院、スポーツ産業論第 6 版、2015、313-329

〔産業財産権〕

出願状況 ( 計 1 件 )

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況 ( 計 1 件 )

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

#### 6 . 研究組織

##### (1) 研究代表者

松永敬子 ( MATSUNAGA , Keiko )  
龍谷大学・経営学部・教授  
研究者番号：60281565

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：